

第4回「京都御苑ずきの御近所さん」

ガーデンデザイナー

うがや
烏賀陽 百合 様



■御出身が京都市内と伺っています。子どもの頃からの思い出で、京都御苑にまつわるものはありますか？

私の実家は元々金閣寺の近くですが、御所の近くの体操クラブに幼稚園の時から通っていて、御所に来てみんなでお遊戯したり、走ったりとかしていました。小学校の間もずっと御所にお世話になっていました。その後同志社女子中高と、同志社大学に通っていましたが、毎日京都御苑に来てさせて頂いていたと言っても過言ではないくらいです。私たちは「御所、御所」と呼んでいました。

学校に遅刻しそうになったら御所に行って、しばらく緑の中を歩いてゆっくりしてから学校に行っていました。お花を摘んで学校に持って行ったりしていたので、すぐ先生にバレていました。お昼はお弁当を持って御所で食べたり、クラブで走るのは内御所だったり、本当に毎日来ていました。学校の先生も植物の勉強をする時は「御所へ行こう」という感じでしたし、お昼寝も御所でしていました。ずっといられる居心地のよい庭のようなところでした。今も京都御苑の近所に住んでいて、しょっちゅう来ています。

■ガーデニング教室や工芸デザインまで幅広く御活躍ですが、具体的な内容を教えて頂けますか？

元々は庭のデザインの仕事をしています。淡路島にある兵庫県立淡路景観園芸学校へ2年通った後に、カナダのナイアガラ園芸学校に行きました。淡路景観園芸学校と姉妹校だったので、その御縁で3年間留学しました。そこで西洋の園芸や庭のデザインの勉強をしましたので、今はどちらかというと西洋庭園のデザインをメインにやっています。

それ以外に寄せ植えなどのガーデニング教室をやっています。鉢にお花や植物を植えたり、盆栽みたいなものをつくったり、ハーブなどの食べられる植物を育てる教室を全国でやらせて頂いています。

また、日本庭園の案内の仕事もしています。外国の方と日本の方の両方に向けて、私が本当にお薦めするお庭を巡っています。一度の御案内で2、3箇所は絶対に御一緒します。ガイドブックにあまり載っていないような、大徳寺の高桐院こうとういんとか、嵐山の大河内山荘おおこうちさんそうとか。お庭をつくった人や庭

に関するエピソードをお話ししながら巡って、最後はみんなでおいしいお菓子を食べて帰ってきます。私は食べるのが大好きで、特にスイーツが大好きなので、案内をする時はお薦めのお店に行って解散、というふうにしています。

仕事の依頼はエージェントからもありますが、ほとんどは個人の方の口コミで依頼して頂くことが多いです。最初は外国の方だけでしたが、だんだん日本の、特に 30 代から 50 代くらいの女性の方から依頼して頂けるようになって。京都にせっかく行くんだったらよいお庭を教えてもらって、最後においしいものを食べて帰りたい、という方が多いです。そして女性は、苔が綺麗なところが好きですね。紅葉や桜などその季節で一番綺麗なお花や自然が見られるところを御覧になりたい方が多いです。

最近、松井金網さんという企業とプロダクトメイキングをさせて頂きました。それは金網と植物のコラボで何かできますか、というお話を頂いたのがきっかけです。鉢で金網みたいに透けるものって見たことがなく、面白いなと思いました。植物を垂らしてもいいですし、苔を周りに貼って網から出てくるようにしてもいい。そういう鉢が欲しい、とお話ししました。他にも、エアープランツという土がなくても生きていける植物を飾れるものが欲しかったので、それだったら網がぴったり、ということで金網の額縁をつくって頂きました。

私が京都でやっている寄せ植え教室でも使わせて頂いていまして、みなさんが御自分のアイデアでエアープランツを飾る教室も開催しました。

いきなりガーデニングとなると、草むしりが大変とか負担になるというお話を聞くので、最初のとっかかりとしてベランダや自分のお部屋にインテリアとして飾ってもらって、生活に植物を取り込んで身近に感じてもらえたらと思います。まず植物をおしゃれなものとして置いてもらったら、手入れも苦にならないと思います。

みなさん枯らすことを心配されるので、最初は丈夫で、育てるのも簡単な植物から始めて頂くようにしています。ハーブや野菜など自分で育てたものが食べられると、楽しいですね。もっと気軽にガーデニングを楽しんでもらおうと思って始めたというのもあります。

■『一度は行ってみたい京都「絶景庭園」』を出版された感想やこれからについてお聞かせください。

最初は、個人のブログで書いていました。庭の話をお話する方が楽しいと感じてもらえるかどうかはわからなかったのですが、「アメリカの人は金閣寺の庭が好きで、フランスの人は龍安寺の庭が好き」という話を友達にしたところ、「それ面白いからブログとかで書いたらいいのに」と言ってくれたんです。それがきっかけとなって書き始めました。そこから出版社の方に声をかけて頂いて、出版社が持っている WEB サイトで連載した後、去年の秋に本として出版させて頂きました。

いろんな人がその本を持って、楽しくお庭を巡ってもらえるようなものにしたいと思ったんです。特に最初は女性がターゲットということだったので、面白く読んで頂けるように工夫しました。かたく書いてしまうと女性はたぶん読まはらへんなと思って。歴史の話でもうダメ、という人も多いので、いつも私が案内でお話するような、面白いエピソードを混ぜながらお庭の話をするといいいかな、と。だから、庭に関係ない話もたくさん載っています。私が海外で体験した話なども入れて、海外の文化の紹介や、文化の比較ができる本を目指しました。もちろんおいしいお菓子のお店やカフェの情報も載せていますよ。

この本を読んで、みなさんに日本庭園とその背景にある文化を好きになって頂けると嬉しいです。私は、植物以外に石が大好きで、灯籠、手水鉢が大好きなんです。そういう石の見方について知るとお庭がもっと楽しくなる、というようなアイデアもみなさんにお伝えできればと思っています。

例えば、善導寺型灯籠。京都の善導寺というお寺にオリジナルのものがある灯籠で、お茶の道具が彫刻されているんですが、みなさんご存じないんですね。そういう話をすると、すごく楽しんでくださる。

みなさん興味を持ってくださると、次から自分で見にいかはる時に「面白い灯籠見ましたよ」と写真を送ってくださります。そうして見ていくと、お庭のまた違った面や、お庭をつかった人のセンスがどんなふうにかかされているかがわかります。

敷石にもいろんなスタイルがあります。「敷石には真行草のスタイルがあって、それは場所の格で変えてあります」とお話すると、みなさん面白いと言ってくさいます。「敷いてある石の道にそんなストーリーがあるなんて」と。

京都にはそんなストーリーのある場所がたくさんあって、そういう意味で庭の宝庫です。「それらをお伝えしたら京都観光もまた全然違う視点から見られて楽しいんじゃないかな」というのが、文章を書き始めた最初の思いですね。まだまだ書きたいことはいっぱいあります。

やっぱり、よいお庭はつくった人の思いもすごく伝わるようなお庭で、その後の維持管理、メンテナンスがすごくきちりされている。それは何代にもわたっての努力がちゃんと繋がっているということ。だからこそ、よいお庭というのは見ていて気持ちがいいなあ、と思います。

「京都はすごいな」と思うのは、すばらしい造園会社がたくさんあって、すばらしい庭師さんもたくさんいらっしゃるということ。個人のお家の松の木の剪定がすごく綺麗だったりして、すばらしい園芸の街だと思います。

■京都御苑で好きな場所、好きな時期などありますか？

春夏秋冬どの時期も好きですね。近衛邸跡のしだれ桜や銀杏の木、拾翠亭の百日紅が有名ですが、私は出水の小川が流れているところや梅林の辺りが好きです。特に、京都の寒い冬がやっとやわらいで梅の花が咲き始める頃に来るのが本当に好きで、「やっと春がきた」と実感します。

夏は小川でピクニックされている風景がすごく好きです。ちょっとした小川があるだけで、子どもたちが遊べて、人の心が和むんやなあ、と思います。

あとは、母と子の森。よく一人でお弁当を持って行って食べたり、近所でパンを買って食べたりしています。人も全然来はらへんかったりして、原生林の中にいるような静かな気分になれます。高校の時からお気に入りの場所で、よく昼寝をしていました。夏も涼しくて、不思議な空間というか、ちょっと違う空気が流れているような感じがします。

中立売の門から入ったところにある木蓮の大木もすごく綺麗で、昔から写真を撮ったりしていました。普通のお家だと大きくなりすぎる前に剪定されますので、あんな立派な木蓮は他に見たことがないです。枝振りがよく、色も美しく感動します。京都御苑はいろんな種類の木を植えられているので「こんな木もある」という発見がいまだにあります。最近は今出川御門の入ったところに、藤の花が滝のように咲いているのを見て本当にビックリしました。

秋は松ぼっくりやいろんな木の実が落ちているし、冬は雪が積もった御所の風景を見に来ます。真っ白な道や建礼門、大文字を撮ったりします。子どもの頃からずっと来ていたので、どの時期に何があって何がいいのかを知っているというのものもあるのかもしれませんが。

ニューヨークのセントラルパークに行った時に「これは京都御苑だ」と思いました。街の真ん中であって人が集まり、歩けば歩く程いろんな自然が出てくる。「あ、こんなところに大きい木があった」とか、「花が咲いている」という出会いが京都御苑も同じだなと思います。

仙洞御所も好きで、本にも書かせていただいています。仙洞御所は山奥の中を歩いているような、本当に仙人が住んでいる場所のような雰囲気があって、京都市内の真ん中なのに別空間をつくり出

している。それは歴史のある京都じゃないとできないことです。御所はすごく考えて植栽してはるといつも思っています。

■京都御苑の今後について、御意見などございましたら自由におっしゃってください。

おいしいコーヒーとケーキが楽しめるような、女性が来やすいカフェがあるといいなと思います。大徳寺をご案内する時は、絶対あぶり餅屋にお連れします。どの国の人も必ずおいしいって言うてくれはる。そういう風に京都らしいものが食べられるカフェがいいと思います。

また地元の人に参加できる教室があればと思います。公園から依頼を受けて寄せ植え教室を開催することがありますが、公園側も地元の人に還元したいと思ってされることが多いです。私の講座をきっかけにその公園に何度かいらっしゃって、職員の方とも仲良くなったりされるのを見るので、御所にもそういう教室があると楽しいだろうなと思います。

2016年8月30日 インタビュー
聞き手：田村省二，山本昌世

○烏賀陽 百合さまプロフィール○京都市生まれ。同志社大学文学部日本文化史卒業。兵庫県立淡路景観園芸学校，園芸本課程卒業。カナダのナイアガラ園芸学校で園芸，デザインなど3年間勉強，またナイアガラ植物公園の管理，デザインも行う。現在京都を拠点に，ガーデンデザイン，庭園案内，全国各地で寄せ植え教室の講師を務める。著者に『一度は行ってみたい 京都「絶景庭園」』（光文社）がある。Facebook ページ「烏賀陽百合 庭とガーデニング」